

## 第67回（令和2年度）矢野賞受賞者の概要

まつい かずのり  
松井 一智（39歳）  
倉敷市船穂町



### 経営内容：果樹

（マスカット・オブ・アレキサンドリア 41a、シャインマスカット 10a、醸造用ぶどう 73a）

フランス料理を学ぶため渡仏した際、マスカットのワインに魅せられ、マスカット・オブ・アレキサンドリア（以下アレキ）を栽培するため、妻とともに平成24年に就農した。

就農後は農地確保から始め、5年間で経営規模を1haに拡大、就農7年目に法人化し、早期経営安定を実現している。

県下トップクラスの経営規模でありながら、品質を重視した栽培に取り組むとともに、令和元年には、自身が栽培したアレキを使ったオリジナルワインの醸造を実現している。

青年農業者クラブ活動では、県でアレキが栽培されて130年となる平成28年に、中心となってPR活動を実施した。

地域においては、就農アドバイザーとして、就農希望者へのアドバイスや新規就農者等へ自らの経験を踏まえたきめ細やかな助言・指導により、新たな担い手育成に尽力している。

かわかみ たくろう  
川上 拓郎（38歳）  
高梁市成羽町



### 経営内容：酪農

（経産牛 83頭、育成牛 49頭、子牛 15頭）

酪農大学校で学んだ後、父の経営する川上牧場に就農し、ロボット等の導入により機械化を進め、ICTを活用した酪農を実践し、作業時間の短縮や省力化、生産の効率化を図りながら、家族との余暇の充実につなげ、ゆとりある酪農経営の実現と技術普及に取り組んでいる。

就農後は一貫して、乳牛の快適性を求めるカウ・コンフォートの考えを基本に管理し、それまで外部委託であった後継牛の育成を、自家繁殖自家育成に切り替えるとともに、牛のストレスを軽減する飼育方法を実践しながら、乳生産量の増加と乳質向上を実現している。

青年農業者クラブ活動では、会長就任時にクラブ員や家族間の交流を図るとともに、地域循環型農業の構築を目指しプロジェクト活動に取り組み、地域内での堆肥利用促進につなげている。

地域においては、地域の子供とその家族を対象に酪農体験会を開催するなど、食育活動に取り組んでいる。

さとう ゆうじ  
佐藤 裕司（36歳）  
真庭市上水田



### 経営内容：花き

（野菜苗 70a、花壇苗 50a、鉢花 1a、寄せ植え 10a）

平成18年に実家が営む佐藤園芸に就農し、それまで市場出荷の花壇苗生産が中心であった経営に、野菜苗の契約出荷を新たに取り入れた。現在、野菜苗生産部門は、花壇苗生産部門を上回る経営の柱に拡大し、佐藤園芸の規模拡大・経営発展の大きな要因となっている。

拡大した野菜苗生産部門は、地元ホームセンターや直売所への販売を主力とし、需要に応じるため多くの種類を生産販売するものの、細やかな栽培管理に加え、用土を自家配合し品目に応じて調整することで、高品質を維持している。

青年農業者クラブ活動では、地域内外の農業者と料理人との交流会を開催し、農業者間の情報交換や料理店との新たな契約に発展するなど、クラブ活動の活性化に貢献している。

地域においては、地域のまちづくり活動や就農後早くから農福連携に取り組み、地元住民や関係機関からもその活動が高く評価されている。